

総務文教委員会

令和元年 8 月 1 日（木）
10 時 00 分～ 時 分
第 1 委員会室

（委員）野藤委員長、小川副委員長
沖田委員、西川委員、永見委員、佐々木委員、道下委員、西田委員
（議長・委員外議員）
（総務文教委員会 所管管理職）出席者なし
（事務局）篠原書記

議 題

1 政策討論会について

「高齢者の移動手段の確保」

2 その他

高齢者の移動手段の確保

令和元年度8月5日
総務文教委員会

提案の趣旨

浜田市においては、少子高齢化による人口減少の進展により、民間の路線バスの乗降客の減少傾向に歯止めが掛からず、事業者の不採算路線の見直しの結果、便数、運行時間が縮小し続けている。また、それを補完する浜田市の代替輸送においても利用者数が低迷している。

市街地や中山間地域を問わず、住民から共通して聞く意見として「バス停に行くまでができない」との声が多くあり、特に日常生活の中で通院と買い物への移動手段の確保が、大変困難だと聞いている。

当市において、交通空白地に対応するため地域のボランティアによる自治会輸送や有償運送も現在3ヶ所で実施しているが、全市域に広がっていない。この事は、利用者ニーズと現実乖離があると言わざるを得ない。

第2次地域公共交通再編計画が策定されたが、より市民に利用しやすい制度への議論が必要と考える。

討議する点

- ① 高齢者の移動手段確保における自助、共助、公助の範囲
- ② 既存事業者との連携と共存と連絡調整機能及び責任体制の明確化
- ③ 事業策定のための専門部署の設置

討議する点

① 高齢者の移動手段確保における自助、共助、公助の範囲

【自助】

2028年には免許非保有者が4000人と想定され、現在の半数で自家用車での移動（自助）は増加する。

【共助及び公助】

1. 市委託の予約型乗合タクシーと井野地区公共交通空白地有償運送がある。利用者負担は低額だが、移動範囲は自治区内で、便数も少ない。
2. 大麻地区自治会輸送、羽原地区自治会輸送と1民間の無償（ボランティア）タクシーがあり、利用者負担は燃料代等の実費である。移動範囲の制限は無いが、ドライバー確保など課題がある。

令和元年7月4日
中山間地域推進特別委員会資料
地域政策部 まちづくり推進課

自動車による
輸送



浜田市のバス・タクシー 運行制度一覧

種別	運行主体	区分	利用者負担	使いやすさ			運行の制限		利用者の制限		届出・協議の必要性など
				弱者	やや弱者	健常者	法規制	運用	法規制	運用	
バス	民間	石見交通線	区間制 均一制	×	○	○	路線 定期	路線 定期			届出:要 協議:不要
	市(委託)	生活路線バス (かなぎおでかけバス、旭路線、 弥栄野原線、ひゃこるバス)	200円 (複数自治区間400円)	×	○	○	路線 定期	路線 定期			届出:要 協議:要(浜田市地域公共交通会議) 会長:副市長
タクシー (有償)	民間	民間タクシー	メーター (時間距離併用)	○	○	○	営業区域	営業区域			届出:要 協議:不要
	民間	民間タクシー (桜ヶ丘買い物タクシー)	定額(3,040円/往復)	○	○	○	営業区域	桜ヶ丘団地 ～プリル		高齢者クラブ 会員	届出:要 協議:不要
	市(委託)	予約型乗合タクシー (どんちっちタクシー、かなぎふれあい 号、さんさん号、やうね号)	300円	△	○	○	区域 (自治区内)	区域 (自治区内)	地域住民	地域住民	届出:要 協議:要(浜田市地域公共交通会議) 会長:副市長
	自治会	井野地区公共交通空白地有償運送 (井野っ地号)	500円	○	○	○	区域 (自治区内)	区域 (自治区内)	地域住民	地域住民	届出:要 協議:要(浜田市有償運送運営協議会) 会長:三隅自治区長
(ボランティア 運送)	自治会	大府地区自治会輸送 (大府コミュニティワゴン)	100円 (燃料代、駐車料金、高速代 以内)	○	○	○	無 どこでも行ける	周布・三隅・ 地域内	無	地域住民	浜田市所有車を無償貸与(2台)
	自治会	羽原地区自治会輸送	200円 (燃料代、駐車料金、高速代 以内)	○	○	○	無 どこでも行ける	市内	無	地域住民	浜田市所有車を無償貸与(1台)
	民間	ボランティア運送 (コムサ)	100円 (燃料代、駐車料金、高速代 以内)	○	○	△	無 どこでも行ける	旧那賀郡から 浜田へ	無	旧那賀郡居住者	自己(コムサ)車両を使用

討議する点 ②

② 既存事業者との連携と共存、連絡調整機能及び責任体制の明確化

平成19年7月・・・浜田市地域公共交通会議が設置された
平成23年5月・・・浜田市地域公共交通活性化協議会が発足
平成24年3月・・・浜田市地域公共交通基本計画策定
平成28年3月・・・第1次浜田市地域公共交通再編計画策定
平成31年3月・・・第2次浜田市地域公共交通再編計画策定

【公共交通等に関する組織】

- 浜田市地域公共交通会議
- 浜田市地域公共交通活性化協議会
- 浜田市有償運送運営協議会

根拠法令により設置されているが、計画策定にあたり十分議論が尽くされているのか

討議する点 ③

③ 事業策定のための専門部署の設置

先進地への視察は、福岡県八女市の予約型乗合タクシー、通称「ふる里タクシー」である。平成19年7月に長野県安曇野市の事例を参考に八女市住民移送サービス研究委員会と言う庁内組織が発足、翌年9月に八女市地域公共交通協議会が設立されている。

旗振り役は当時の市長と聞いているが、行政が主導的に役割を持って動いた事は大きい。民間事業者間では調整が難しく、専門部署の設置が必要と感じる。

八女市予約型乗合タクシーの概要

I 事業の概要

事業主体：八女市・八女市地域公共交通協議会

事業形態：国土交通省所管事業による実証運行（平成21～23年度）を経て平成24年度から本格運行へ移行

運行方式：電話予約によるドアツードア方式の乗合タクシー

運行内容：市内11エリアのエリア内移動を原則に、平日のみ8便運行

運行台数：12台（10人乗りワゴン型タクシー）※金曜日のみ13台

委託業者：予約受付・配車等運行管理業務 … 八女市商工会

車両運行業務…大丸タクシー(株)、堀川バス(株)、くろき交通

(有)川島タクシー、星野タクシー(有)、(有)八女観光バス（順不同）

予約配車システム…西日本電信電話(株)（NTT西日本）

利用方法：①事前登録 ②電話で予約 ③玄関から玄関まで送迎

利用料金：片道300円（旧市町村を越えるエリア移動は400円）

利用見込：1日220人、年間53,900人（H30年度実績49,850人）

II 導入までの経過

【事業の背景】

八女市は、平成18年10月に旧上陽町を編入、更に平成22年2月に周辺2町2村（黒木町・立花町・矢部村・星野村）を編入し、人口約70,500人、面積482.44km²の自治体となった。



歴史的に、既に日常生活文化圏を構成していた2町2村と合併した新八女市は、「定住自立圏構想」に基づく、安全・安心なまちづくりを目指している。

【事業の目的】

広大な山間地域を抱え、全国平均を大きく上回る高齢化（34.8%：H31.3住基人口63,371人 65歳以上22,080人）が進む中、定住自立圏構想の柱の一つである地域公共交通の維持・確保を図るため、既存の路線バス、患者輸送車、福祉バス等の地域生活交通を抜本的に見直し、デマンド交通を導入した。この新しい交通システムを活用し、市内に点在していた交通空白地域の

解消を図り、安全・安心のまちづくりを支えていくものである。

【取組みの経過】

- 平成19年7月 八女市住民移送サービス研究委員会設置（庁内組織）
- 平成20年9月 八女市地域公共交通協議会設立
（市、交通事業者、利用者、その他関係団体で構成）
- 平成21年3月 八女市地域公共交通総合連携計画策定（国交省「地域公共交通活性化・再生総合事業」を活用。実証運行も同事業）
- 平成22年1月 第1次実証運行開始（1/18）
2エリア3台（旧八女市及び旧上陽町の一部）
- 2月 利用促進PR及び全域拡大に向けた地域説明会開始
- 12月 第2次実証運行開始（新市全域運行）（12/1）
11エリア11台 利用登録者 8,802人
※黒木予約バス、星野コミュニティバス 廃止
- 平成23年4月 12台運行（八女エリア1台増車）開始（4/1）
※堀川バスダイヤ改正（朝夕便、スクール便運行）
※福祉バスさちかぜ号、患者輸送車 休止
- 8月 アンケート調査実施（利用経験者400人、未経験者100人）
※80%の方が「暮らしが便利になった」と回答
- 11月 愛称募集（115点の応募の中から「ふる里タクシー」に）
- 平成24年4月 本格運行へ移行
- 6月 「生活交通ネットワーク計画」策定
- 11月 国土交通省「地域公共交通確保維持事業費補助金」申請
- 平成25年9月 平成25年度地域公共交通優良団体国土交通大臣表彰受賞

Ⅲ 今後の取り組み

平成24年度から本格運行に移行したが、エリア越え、運行日、運行時間など、「乗合タクシーの運行ルール」や「路線バスとの連携」等の課題は多く残っており、今後とも、市民に末永く親しまれる公共交通機関となることを目指し、改善を進めていく。



■初期導入経費及び財源

(単位:千円)

項目	年度区分	補助対象経費	対象外経費	計
予約システム	1次導入時(H21年度)	24,086	5,040	29,126
	2次導入時(H22年度)	15,960	3,739	19,699
	計	40,046	8,779	48,825

財源内訳	年度区分	地域公共交通 活性化・再生総 合事業補助金	地域活性化 経済危機対策 臨時交付金	定住自立圏 整備基金	一般財源等	計
	1次導入時(H21年度)	12,043	5,040		12,043	29,126
	2次導入時(H22年度)	2,912		16,787		19,699
	計	14,955	5,040	16,787	12,043	48,825

■維持管理費及び財源

(単位:千円)

項目	年度区分	運営費等	予約センター運営	車両運行業務	計画策定業務委託	車両購入補助	システム関係費	PR活動費	計
決算額	平成24年度	782	19,929	38,144			3,162	382	62,399
	平成25年度	683	17,556	40,423			1,821	58	60,541
	平成26年度	1,240	17,960	42,363			3,205	130	64,898
	平成27年度	1,576	16,200	45,189			5,534	186	68,685
	平成28年度	1,529	18,812	45,566	5,940		5,833	70	77,750
	平成29年度	689	17,210	48,120	6,750		7,553	1,458	81,780
	平成30年度	460	17,001	48,966		4,500	7,553	5,318	83,798

※網計画推進事業費を含む

財源内訳	年度区分	過疎対策事業債	国庫補助金	一般財源等	計
	平成24年度	55,000	6,394	1,005	62,399
	平成25年度	41,200	19,216	125	60,541
	平成26年度	43,700	19,970	1,228	64,898
	平成27年度	53,200	14,273	1,212	68,685
	平成28年度	46,300	17,982	13,468	77,750
	平成29年度	34,000	9,832	37,948	81,780
	平成30年度	40,000	13,787	30,011	83,798

◆補助金額推移【地域公共交通確保維持改善事業費補助金】

・平成24年度(H24年04月～H24年9月)	6,394千円
・平成25年度(H24年10月～H25年9月)	19,216千円
・平成26年度(H25年10月～H26年9月)	19,970千円
・平成27年度(H26年10月～H27年9月)	14,273千円
・平成28年度(H27年10月～H28年9月)	17,982千円
・平成29年度(H28年10月～H29年9月)	9,832千円
・平成30年度(H29年10月～H30年9月)	13,787千円

■乗合タクシー導入前後の経費比較【導入前と平成23年度実績との比較】

(単位:円)

交通機関名	導入前		導入後		差引	備考
	内容	金額	内容	金額		
路線バス	7路線	53,350,000	4路線	30,030,000	△ 23,320,000	羽矢線、星野線、横山線、迎春線、白木線、広川線、久留米線
路線バス(朝夕便)			3路線	7,150,000	7,150,000	迎春線315万円+白木線150万円+星野(十籠~浦)250万円
路線バス(スクール便)			1路線	1,663,480	1,663,480	横山線350万円-小中学生定期券収入※教委のスクールバス不要
小計		53,350,000		38,843,480	△ 14,506,520	
さちかぜ号	4コース	2,640,000	廃止	0	△ 2,640,000	
予約バス	6路線	21,000,000	廃止	0	△ 21,000,000	
代替バス	黒木	3,600,000	移管	0	△ 3,600,000	学校教育へ移管予定
患者輸送車	2台	4,634,000	廃止	0	△ 4,634,000	
コミュニティバス	2台	5,033,000	廃止	0	△ 5,033,000	
小計		36,907,000		0	△ 36,907,000	
乗合タクシー			12台+予備1台	37,676,500	37,676,500	1台:2000円×8H×244日=3,904千円 運賃の1/2を相殺済
予約センター			オペレーター6人	19,473,550	19,473,550	人件費15,472千円 通信費1,653千円 管理運営費2,349千円
システム維持費			一式	1,512,000	1,512,000	NTT保守料
事務費、広告宣伝費等			一式	3,407,858	3,407,858	協議会運営費126千円 事務費2,246千円(臨時職員1人)等
小計				62,069,908	62,069,908	
合計		90,257,000		100,913,388	10,656,388	

■収入を加味した比較

交通機関名	変更前		変更後		差引	備考
	内容	金額	内容	金額		
上表合計再掲		90,257,000		100,913,388	10,656,388	
利用料(運賃)	予約バス	△ 1,980,000		0	1,980,000	乗合タクシーの運賃は業者の収入。運賃の1/2を委託料から減額
国庫補助金	予約バス	△ 4,306,000	乗合タクシー	△ 13,013,550	△ 8,707,550	地域公共交通活性化・再生総合事業
合計		83,971,000		87,899,838	3,928,838	

参考資料

○八女市ふる里タクシー動画

<https://www.youtube.com/watch?v=ZP7umHm7ezk&feature=youtu.be> ■

○第2次浜田市地域公共交通再編計画（PDF）

www.city.hamada.shimane.jp/www/contents/.../koutuukeikaku.pdf